

教職員・院生版生協だより

かけはし

No. 260

2005年 7・8月号

発行 名大生協理事会

編集 名大生協教職員委員会

☎ 学内線 7540, 学外線 781-1111



「若い頃に広く興味を持って勉強してほしい」

と語る松田幹 生命農学研究科長

名大生協のホームページ (URL) <http://www.nucoop.jp/>
教職員委員会への e-mail あて先 kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp

もくじ

主張「通常総代会を終えて みんなの力で生協の 新しいお店を作ろう」	3
【インタビュー】	
学問の魅力、学生、生協への期待—研究科長へのインタビュー① 松田幹生命農学研究科長	4
【報告】	
通常総代会テーマブースの報告	3
名古屋大学平和憲章のつどい報告 憲法をいかすも殺すも市民次第	20
名大祭有志企画「ミニ平和資料館」	21
教職員委員会の活動日誌	23
北部生協まつり教職員委員会企画報告	24
理学部利用者懇談会報告 高くても美味しいものを食べたい	27
6月度理事会報告	27
【記事】	
魔言「車に乗ると」「エスカレーター」「へたくそ」	14
新フィールドノート—その89—「微小重力の世界」	16
ニュースに一喝！「1分30秒が5350年」「知らないということ」 「占い師の妄言」	18
かけはしの輪	22
アンケート・クイズ解答用紙	26
CO-OP QUIZ<Logic>	裏表紙

表紙のことば

6月1日、研究科長インタビューで生命農学研究科室に松田研究科長を訪ねる。タンパク質がアミノ酸にならずにそのまま体内に吸収されることによつてアレルギーやはたまた狂牛病といったものまで関係しているという話しを聞いた。そうした研究からアレルギーを少なくする食べ物を遺伝子組み替えでできるようになるという。生協は安心・安全をキーワードにしてきていて安全性を確認できない遺伝子組み替え食品は取り扱わないようにしている。科学の進歩と安全性を考えさせられるお話であった。

(みのうら)



「若い頃に広く興味を持って勉強してほしい」と語る
松田幹 生命農学研究科長

主張

名古屋大学生協第77回通常総代会が、5月27日午後5時20分から南部食堂ホールにて開催されました。総代会には202名の総代が選出され、168名(書面議決85名を含む)の出席がありました。教職員総代は過去最高の27名の方に総代を承諾いただきました。総代会では、活発な意見交換のあと、2004年度活動報告、2005年度活動方針、2004年度決算報告、剰余金処分案など、全議案が賛成多数で承認されました。

今後総代の皆様と懇談会などを通じて生協のお店の改善に取り組んでいこうと思っております。その際にはご協力をお願いする次第です。

2005年度のアクションプランの中で重要と思われることは大学との協力関係をこれまで以上に大切にして、災害時における協定の締結、理系総合店舗が名大生協からの一部資金提供

も含めて新しいお店として生まれ変わることです。利用される皆さんのご意見を取り入れながら学生・院生・教職員が楽しく集う、いいお店を作っていきたいものです。

この間、全国大学生協連合会が発行している機関誌「UNIV・COP」に平野総長と福家理事長とのインタビューが掲載

と考えております。

夏に入りますと学生、院生の組織、生協職員もセミナーや合宿などを行い、自己研鑽に励みます。我々教職員委員会も7月中旬に東海地域センター(東海地区の21の大学生協が加盟)の教職員セミナーや8月中旬には教職員委員会として活発に活動されている大学生協の教職員に

通常総代会を終えて

みんなの力で生協の

新しいお店を作ろう

されましたので、全教職員の皆様に配付させていただきました。お読みいただけましたでしょうか。名古屋大学および大学生協の将来にとって貴重な示唆をいただいたと思います。今後名古屋大学との連携や協力を強めながら福利厚生面で学内の構成員はもとより名古屋大学を世界に誇れる大学にしていきたい

集まってもらい、元気な愛知、名古屋大学にて教職員交流会を開催することになっており、その準備をしています。教職員総代の皆様にもご協力いただけたいと考えております。大学生協連東海地域センターでは、今秋には生協がない大学の学生たちにも生協を利用できるようにインターカレッジコープ愛知を設立

する予定です。今後とも生協をご利用していただき、ご意見・要望をお願いいたします。

総代会テーマブースでは次の内容で話し合われました。

組合員の声に基づくお店作り
組合員の声を生協の店舗や商品、メニューにどう活用するかを参加者と共に考えました。

共済や助け合いの取り組み

名古屋大学での健康や安全、助け合いの取り組みの紹介をしました。

激甚災害対策

地震が起きたときに、大学ができること、大学で取り組むこと、自分たちを守ることを紹介をしました。

ユニセフ・平和

平和やユニセフに関する取り組みとイベント関係の発表をしました。

読書・学読班

読書への提案や学読班の取り組みと活動計画の紹介をしました。

大学院生

昨年度行われた「院生生活実態調査」の結果報告を行いました。

学問の魅力、学生、生協への期待

— 研究科長へのインタビュー ⑪

まつだ つかさ

松田 幹 教授

生命農学研究科長

タンパク質を材料に研究

加藤 先生方が大学で研究されている先端技術の研究成果などが、実社会や日常生活にどう生かされているのかという話に興味をお持ちの方も多いので、先生の研究テーマを振り返っていただきながらお話いただければということ。また、大学が法人化して2年目ですが、農学部もいろいろな改組を考えていらつしやると思います。

農学部がこれからどんなふうになっていくのかお聞かせいただければと思います。また、若い世代—学生・院生のみなさんに先生からのアドバイス。そして最後に生協に一言。日頃からいろいろお気づきのこともあると思います。この機会に教えていただければと思います。

松田 私の専門は、生物学と化学の中間のようなもので、農学の中に農芸化学という分野があります。農学の中でも化学的な分野を歩んできたと言っているかと思えます。私自身は主にタンパク質を材料に研究してきました。タンパク質は食糧として重要な栄養素

の一つで、タンパク質が無いと我々の体もできません。例えば植物では種子にタンパク質がたくさん貯蔵されます。これは種子が芽をだして成長するときの栄養素としてのタンパク質になります。また、人間が種子を食べれば、食物栄養素としてのタンパク質になります。

タンパク質が、消化されずにそのまま体の中に入る

ご存知でしょうが、タンパク質は食べた後に消化されてアミノ酸になって吸収され、血となり肉となる、これが昔からの栄養学です。今、私はその中でも消化されないでタンパク質がそのまま体の中に入るといふ少し違った視点での研究をしています。量的にはごく少ないのですが、分解されずアミノ酸にならないでまるのまま入ることがあります。昔から現象としては知られていましたが、あまり注目されてこなかったんです。そういうタンパク質のことは、栄

養学とか食品学という教科書にはあまり書いてありません。それは栄養学的にはほとんど無視できるくらいの量で、現象としてはあるが栄養素としては意味が無いからです。

なぜ私がそんな意味が無いタンパク質について研究しているかといいますと、食物アレルギーと密接な関連があると分かってきたからです。最近も食物アレルギーの問題が話題になっていますが、私が学生の頃—もう25年くらい前ですが—にも既に一部では話題になっていました。その頃から食物アレルギーの研究を始めたんですが、その原因が、ごく少量のタンパク質が体の中に入ってしまうからであるということが分かってきました。

食物アレルギーが起こるメカニズムを説明していくために二つの方向から研究しました。一つは、タンパク質でもいろいろな種類があり、必ずしも全てのものが原因になるわけではないので、その中で原因になるものを見つけて、そこから手がかりを得ようという研究です。もう一つは、ある原因になるタンパク質が、食べた後に、なぜ消化管

(6月1日生命農学研究科長室にて)



タンパク質が、消化されずに体の中に入る
―食物アレルギーと密接な関連があります。

松田 幹 (MATSUDA TSUKASA) 教授

大学院生命農学研究科 応用分子生命科学専攻

生命農学研究科長・農学部長 (2004.4～)

農学博士, 医学博士

【現在の研究課題】

タンパク質の生合成と分泌に関する研究

アレルギー原因タンパク質に関する研究

タンパク質の体内への取り込みと意義に関する研究

内で分解されず体の中に入るのだ
ろうか、という素朴な疑問に答
えるための研究です。その辺はまだ
良く分かっていないのです。

よく知られた現象の
メカニズムを明らかに

タンパク質が腸から吸収される
現象でよく知られているものもあ
ります。食中毒では下痢や嘔吐を
したりしますが、あれは微生物が
作る毒素が原因です。その毒素は
タンパク質です。三万という大き
な分子量のものが、それがそのま
まお腹の中に入って、体内に吸収
されて、実はおう吐中枢という脳
まで届きます。食中毒ではお腹も
痛くなりますが、嘔吐しますね、
これはお腹に入ったものが毒だか
ら早く出さないという信号が神
経系まで行って、その結果嘔吐が
起こるわけです。このような毒素
タンパク質がどうやって吸収され
て脳までいくのか良く分かってい
ないところがあります。

狂牛病もプリオンというタンパ
クが原因です。牛が肉骨粉として
口から食べたプリオンタンパク質
が、分解されずに―量は少ないん
ですけど―脳までいくわけです。
食物として口から入ったタンパク

タンパク質が体の中に吸収される、そのメカニズムが分かればアレルギーが予防できます。

質が、そのまま吸収されて体の中をめぐることが不思議だな
と思ひ、そのメカニズムを明らかにしたいと思っています。

メカニズムが分かれば
アレルギーを予防できる

タンパク質が体の中に吸収されるメカニズムがわかれば、それを抑制してアレルギーを予防できるのではと考えています。また、できればそのアレルギー原因成分を少なくしたような食べ物、農産物が生産できたらいいと考えています。技術的には遺伝子組み換えでできますが、生協の機関誌上での発言としてはあまりよくないかもしれませんね。(一同笑い)

またそれは「パブリックアクセス」ブタンス、今はあまり言わないようですね、社会的理解とか「みなさんにはなかなかご理解いただけないこととか受け入れがたいところがあるでしょう。ただし遺伝子組換えではないクラシックな方法でもそういうことはできますので、農作物の育種とか食品加工のレベルで除去したり、抑えたりすることができないかという研究もしています。ほかにもいろいろなことに興味があり研究しています

が、そのうち皆さんに興味を持っていただけそうなこととお話ししました。

腸管からの吸収には
選択性がある

加藤 なにかトピック的に、こういうことが分かった、ということがありましたら…。

松田 最近のトピックとしては、やはりタンパク質の吸収に関しては、腸管からの吸収にはかなりの選択性があることが分かっています。食ベさせ—実際は口から胃の中に注入するわけですが—その後血液を取って、その中にあるタンパク質を回収して分析してみました。血液の中の、消化管—実際は腸の中ですが—にあるタンパク質を回収して、その化学的な構造を調べてみました。

腸の中は予想通り消化・分解がすすんでいました。腸の中には消化酵素がありますから消化酵素で切れた分解途中の物です。最後は

アミノ酸になりますが、その前の少し小さくなった分解断片がたくさんありました。しかし、未分解のタンパク質はほとんど検出できませんでした。

食べた物が原因で
なぜ皮膚炎に…

ところが、門脈—小腸から肝臓に行く途中の血管が門脈ですが—から血液を抜き取ってきたら、そこには意外にほとんど分解断片が見つかりません。むしろ未分解の大きなもの、まるのままのタンパク質がほとんどだったんです。単純に漏れて中に入るといふものではなくて、非常に選択的に未分解のものだけが体内に吸収されているんです。それが私には予想外というか、びっくりだったんです。

門脈血ではそうなんですけど、果たしてそれが末梢である手足の方までいくかと考えて、次は末梢の血液を取ってみました。するとそれも同じように未分解の大きなものが、かなりの濃度で検出されました。肝臓を通っても、ここではトラップされずそのまま体中を回っていくことがわかりました。確かに食物アレルギーは起こるんですが、消化管だけではなくて、



【写真】インタビューに答える松田
研究科長(左)。(6月1日、生命
農学研究科長室)

皮膚炎のように末梢でもおこりま
すよね。食べたものが原因でなぜ
皮膚炎になるのか？ 昔から信じ
にくいことでしたが、この研究で
確かに末梢まで、かなりのレベル
の量が到達することが実証され、
それで食物アレルギーになること
が分かりました。

タンパク質が 体に直接吸収される現象 内服薬でも利用

もう一つ興味深いことがありま
す。内服薬にタンパク質医薬とい
うものがあります。風邪薬の中に
含まれている塩化リゾチームを御
存知ですか。あれは鶏の卵のタン
パク質です、実は。工業的に精製
した卵白のタンパク質です。病院
に行くときよく出る薬ですが、飲ん
で消化されたらアミノ酸になって
しまつて効力はなくなるはずで
す。しかし実は一部が多分吸収さ
れてからだの中に入っていくから
そういう薬理効果が出るのでしょ
う。タンパク質の吸収はそういう

ことにもつながっています。だか
ら薬の辞書には、塩化リゾチーム
の副作用として、卵アレルギーの
人は要注意と書いてあります。言
い換えると、それが体の中に入る
ので、アレルギーの人は症状が出
てしまうということです。このよ
うにタンパク質がアミノ酸に分解
されないで体の中に吸収されると
いう現象を、内服薬としては使っ
ているわけです。しかし、そのメ
カニズムとか、生物学的に、なぜ
吸収するのか、たまたま入るの
か、意図的に取り込んでいるのか
なども分かりませんね。その生理
的な意味と言いますか、意義が何
だろうというのも興味深いです
ね。

加藤 タンパク質の種類によつて
当然違うんですよ。

松田 違いますね、基本的には大
体どんなタンパク質でも入るよう
ですが、入りやすさは種類によつ
て違います。

今井 下手に風邪薬って買えない
ですね。

松田 いやいや、そんなこと無い

ですよ。ただし、重症の卵アレル
ギーの人は要注意ですね。

食物アレルギーと成分表示

加藤 食物アレルギーについて
は、教職員の方々にも関心のある
人が多いと思います。

松田 生協にも関係があると思
いますが、二、三年前、省令が改正
になって表示が義務づけられまし
たね。成分表示としてラベルに
いっぱい書いてあります。行政と
して、表示すべき品目を決めたり
検査の方法を決めるとき、私もそ
の委員会に関わったことがあります。
加工や製造の現場では難しい
問題があるでしょうね。量に関わ
りなく表示の義務があります、無
その検査方法によつて、有る、無
いという判定が微妙になることも
あります。技術的に検出限界が
ありますから。今の方法では検出
されなくても、技術が上がれば上
がるほど、「含む」ものが増える可
能性がありますね。工場のレベル
で、いわゆるコンタミで僅かな量

がたまたま入ってしまったという
場合も引つかかってしまいます。
それは生理的にアレルギーの反応
のレベルで言えば、それほど心配
しなくていい量かと思いますが
…。技術が進んで検出されてしま
うということがあるかもしれませ
ん。

今井 私どもも、たとえば特に受
験生にお弁当を提供したりする
ときには、たいへん神経を使いま
す。受験という大切な機会です
から…。

松田 アレルギーを含めて、食品
の安全・安心という問題に関心
がたかまっていますね。昔も食物ア
レルギーがあつたんでしようが、
あまり分からなかった、まさか食
べ物が原因だとは思われないし、原
因やメカニズムも証明できなかつ
たでしょうし。ただ、食品の安全
性にあまり過敏になりすぎるのも
要注意かと思ひます。科学的根拠
に基づいて判断することが大事
で、その意味でも我々研究者、科
学者の責任が重いですね。

医学部との共同研究

加藤 アレルギーということ
で、先生は医学部とも関係は深い
んですか？

食品の安全・安心—科学的根拠に基づいた判
断が必要で。我々科学者の責任は重い。

農学部では「食」「環境」「健康」をキーワードとして教育・研究をしています。

松田 はい、小児科の臨床の先生とはずつと共同研究をやらせていただいています。症例のお話を伺ったり、患者さんの血液サンプルをいただき、その血液を使つて原因成分を探すというような研究をずつとやってきました。こちらからいろいろなタンパク質のサンプルをつくつて、それを臨床の先生にお渡しして、皮膚テストなんかをやつていただいています。臨床症状とどういう物質が関連性が高いか、どういう原因の物質がどんな症状につながるかというようなことも調べています。

タンパク質の種類

松田 数えることはできませんが、食品の種類によつてずいぶん違います。例えば卵白の場合には種類がかなり少ないです。主要なものが4つとか5つくらい。後は非常に微量です。ミルクの場合でも5種類くらいですね。植物になると、特に種子ではすくく多いですね。ほんとに多種多様です。たぶん、植物の場合には長い間人工的に育種・品種改良をしてきて、自然の、野生の植物、原種の作物とずいぶん違ってきていて、その間に遺伝子の重複が起こつて、似て非なるものがたくさん出てきたんだと思います。遺伝子ファミリイと言っていますが、元の遺伝子は

多分同じですが、少しずつ違うものがすくくたくさんありますね。皆川 種子つて言うか、いわゆる実ですね。

皆川 タンパク質というのはどのくらいの数、種類があるのでしょうか。数で数えられるものでしょうか。

松田 植物の実の中の種ですね。種子のタンパク質を分析してみると、2次元で—縦向きでわけて、それを次にまた横向きにわける—そうすると一つひとつのタンパク質の点々がいっぱい、100とか200とか出てくるんです。

松田 非常に複雑なんです。皆川 非常に複雑なんです。松田 その中から何がアレルギーの原因なのか、探すのは大変です。あるいはそれだけを無くそうなんてことはまた大変なことです。

「食」「環境」「健康」が農学部のキーワード

農学部では「食」「環境」「健康」をキーワードとして教育・研究をしています。この研究はそのうちの食と健康の中間的なところでしょうか。

加藤 「食」「環境」「健康」ということでは、大学生協も、学生のみなさんにそういうことを提供しな

進化する分析技術

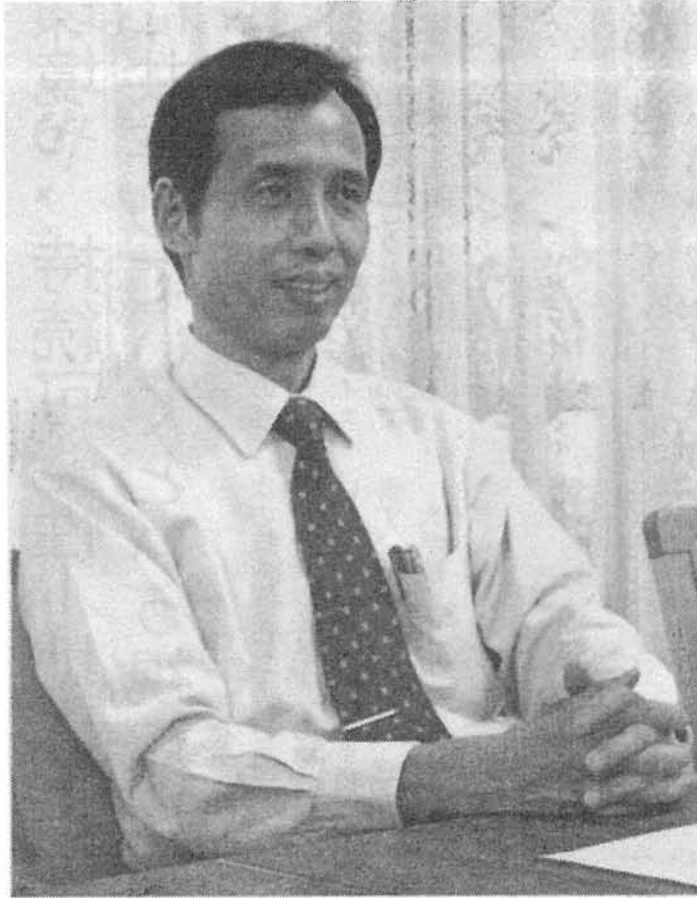
加藤 研究の手法としてコンピュータで解析するんだと思いますが、この10年位ですくく変わってきていると思います。松田 すくく変わりましたね。特に農学系と言いますか、生物系と言いますか、もう解析や情報処理

の技術的な進歩がすくく微量で高感度に分析とか構造解析ができますから。たぶん私の学生のころではとてもできないようなことが、今では2、3日でできてしまうような時代です。

DNAの塩基配列にしても、今までですと何日もかかっていたものが、一晩で読めてしまっています。その解析もコンピュータで自動化されています。たぶん科学のいろいろな分野の中でも生命科学の進歩が著しいと思います。その背後には、技術的な進歩があります。例えば顕微鏡などの光学的な機器とか、質量分析装置などの化学分析機器とかです。ノーベル賞をとった田中さんの研究がきっかけで質量分析がタンパク質にも使えるようになりましたが—うちにも数台ありますよ—そういう高性能の機器とコンピュータの組合せで、短時間で大量のデータを取つて解析できるようになったことが大きな進歩です。昔は材料を1キログラムくらい持つてこないといふ、そこから精製して構造を決められなかったんですが、今はその1000分の1くらいで済んでしまふかもしれません。

皆川 1gですか？

松田 はい、1gでもできるくら



い。感度では10000倍くらい、あるいはもっと上がっています。スピードも、ずいぶん速くなつて、例えば1日に1サンプルしかできなかったものが1日に10とか100サンプルくらい出来てしまうというくらい感覚です。すごいスピードです。だから今の学生さんにとっては、実験は面白いと思うんです。結果が早く見られますし、新しいことがどんどん見えてきますので結構興味を持ってやっているようです。

加藤 次のテーマにすすみたいと思います。これからの大学のす

む方向についてお話いただけますか。

農学部改組 2学科から3学科へ

松田 まず近いところでは、今、学部のほうの改組を計画しています。現在は資源生物環境学科と応用生物科学科の2学科です。以前に6学科だったものを2学科に統合したんですが、少し大きすぎたかなと思っっています。農学部はかなり分野が広く多様ですので、入学後、3年、4年次にいろいろな

分野に分かれ行くときに、自分の興味は少し違ったなっていう人もいたりしました。だからその2学科と6学科の中間で3学科にすることにしました。それは生物環境科学科、資源生物科学科、応用生命科学科で、18年度、来年の4月、来年の入試から変える予定です。

国際的視野の大学院生 農国センターでも教育を

大学院は、いわゆる重点化といっている大学院のほうにシフトする改組が終わって少し落ち着きました。まだ少しずつ、マイナーチェンジはしていますが、四つの専攻でやっています。

生命農学研究科に関連深い二つのセンターがあります。生物機能開発利用研究センター(生物センター)と農学国際教育共同研究センター(農国センター)です。

生物センターは前から協力講座になっていましたが、今度、農国センターにも大学院を担当していただくようになりました。国際的な感覚を学び、世界を将来の活躍の場とするような大学院生を育てようということで新しくこの四月から協力講座になってもらいました。

また去年の四月から生命技術科学専攻をつくり、今年の四月に教員定員を少しそちらに動かして増強しました。

生命技術科学専攻について

新しい専攻に技術科学という名前をつけましたが、その中身について少しお話しします。学問の流れとしてどちらかというと基礎から応用という流れが一般に考えられますが、必ずしもそれだけじゃないと思っっています。応用あるいはその実学的なところには、いろいろな技術やノウハウがあつたりします。それを科学的に解析して根拠をみつけていく中にいろいろな面白いことが分かってくることがあります。それで基礎的な新しい知見ができて、それをまた更に新しい技術開発にフィードバックするような、そういう逆のなぐれも考えてみようということです。

テクノロジーを駆使して何でもありというような、先ほど話したような物理学的、工学的な技術をなんでも持つてきて生命科学を研究するというような感覚です。実際に現場で、これまでいろいろな経験されている不思議な現象や、

環境や、持続可能性―地球上の生物が、平和に共存していくという視点をプラスして…

理由はよくわからないが長年の経験でやっているとか、そういうものを科学的に明らかにしてサイエンスにしていこうというものです。学問の発展と同時に、新しい

次の技術開発につなげるような教育と研究のイメージの専攻にしていこうという意気込みを持っています。大学院重点化の改組の時に、そ



れまでの「農学研究科」を「生命科学研究所」に改称しました。その理由の一つは、クラシカルな農学はもちろん非常に重要で、食料生産というのはずっとこれからも重要であることは変わらないんですけど、それにプラスしてもう少し広い視点で、環境とか持続可能性（サステイナビリティ）という課題も含めて、社会のためにももう少し広い視点で農学を考えようということだと思っています。物質循環とか自然生態系、環境なども含めた地球上の共生環境の維持―いろいろな生物がお互いに平和に共存していく、そんな視点を持って研究教育をやっていけたらと思っています。

加藤 学生の定員は増えていきませんか？

松田 もう厳しい状態で、学生ももちろん教員の定員も増えないでしょうね。

加藤 名古屋大学の入試は、推薦のほうに前倒しして、学生募集するように変わってきていますね。

松田 そうですね。うちは推薦入

試と、前期および後期日程で選抜していますが、入試制度も考えないといけないと思っています。全学他学部との歩調や他大学の農学部がどうするかという問題もあり、まだ具体的な案は出ていません。

留学生について

加藤 留学生はやっぱり多いんでしょうか？

松田 農学部の場合、歴史的には多いのですが、最近では国費留学生の総数が減ってきて頭打ちというか伸び悩みでしょうか。このごろ文科系がむしろ多いみたいですね。

加藤 海外の大学とのやり取りはたくさんあるんですか？

松田 そうですね、海外のいろいろな大学と、部局間の学術交流協定を結んで交流していますし、個人のレベルでの共同研究もかなり多いと思います。アジアのいくつかの大学とは相当長い交流の歴史があります。設立直後から何十年とやってきて、元留学生が非常に多くて、名古屋大学同窓会のようなものが向こうにあつたりします。

留学生に関しては、語学の問題

があります。アジアの国々の学生さんは英語が堪能ですから、

オーストラリアとか、アメリカ

とか、やっぱり英語圏に流れる傾向があるように思います。そこはわれわれ教員にも責任があるのですが、本当は全部英語で

講義をやれば一番いいんでしょうけれど、今度は日本人の学生がついていけなくなる、ということもあります。難しい問題

です。大学院の場合は研究室に配属されますので、留学生と接するときは英語でできますが、

ただゼミとか日本人学生が多い環境になりますとやっぱり日本語になってしまいます。留学生も日本語を勉強していきますけれど、そう短期間では専門的な議論ができるころまではいかないので、ちよつとハンデイがあるかなって思います。

幅広くいろいろなことに興味をもつて

加藤 それでは若い世代―院生

幅広く知的好奇心を常にもつて

いろいろなところで勉強しておくとい

い。

や学生さんへの先生からのアドバイスを願います。

松田 これと違っていいアドバイ

スはできないかもしれないですが、自分の経験から言って学部とか大学院修士ぐらいの時には、専門とか、自分はこれだつてものを決めないで、幅広くいろいろなことに興味を持って勉強してほしいと思います。将来はどこかで絞り込み、自分の専門を決めていくわけですが、若いころに広くいろいろなことをかじっておくのは大切なこと最近思います。

文科系の学問にも知的好奇心をもつて

私の場合も、もともと生物が専門ではなく、大学受験は物理と化学で通った人間なんです、そのうち面白くて我流で生物を勉強しはじめました。もともと物理、化学、数学などが好きだったもの

ですから、学部にはそんな勉強もしてきて、今生物をやるには結構そういうのが役に立っている

ように思います。工学的なこととか、情報とかコンピュータ、統計なんかもそうです。

幅広く知的好奇心を常にもつていろいろなところで勉強しておく

いいという気がします。

文科系の科目もですね、本当は

きつと。私はそれが少し悔やまれます、あまりサボらないでも少し勉強しておけばよかったかなと思

います。教養はやっぱり大事ですよね。今なくなつてしまいましたが、昔は教養部があつて、自由な時間がけっこうあつて、いろいろ好き勝手に遊んだり勉強したり

できた時代がありました。今はいろいろなことがスピードアップして学生さんも忙しすぎるの

な。

今井 先日、名大生協の福家理事

長が平野総長にお会いしたとき、私も同席させていただきました

が、今のようなお話は、平野総長もおっしゃっていました。今、一

年生から専門科目が増えていてかなりの単位が取れますね。そうするとどうしても自分の方向をそこ

で定めようとする。文理ということ

をいいますが、理の人は文にいい

かない、文の人は理にいい。何とかしたいと総長もおっしゃっていました。

モチベーションあれば短期間にうんと伸びる

松田 特に、10年20年前に比べるとだんだん寿命と学歴が上がつていて、以前の学部生が今の大学院の修士ぐらいの感じがします。だからある意味では学部のころが昔の教養的な位置づけで、もっといろいろやっておいてもいいのかなつて思います。それは教員のほうの責任もあります。どうしても積み上げの教育といいますが、うちの学部とか専門に来るにはこれくらいのことは知って欲しいというようなことがあるものですか、ついついそういうカリキュラムになりがちなんです。

多分、大学院に入ってからでも、興味や動機・モチベーションがあれば、短時間でもその分野の知識や能力がうんと伸びるとい

う気がします。やはり面白くて勉強するのと試験のために勉強するのとでは効率が随分違って、興味があるものは自然に覚えますよ。知

り

り

り

り

り

り

り

り

り

り

り

り

り

大学と生協—めざす方向やその考え方は似ています。大学の活動に支援と協力を。

らないうちに覚えていく。本でも知らないうちに読めてしまう。小説を読むようにどんどん読んでしまおう。だからそのことが本当に好きで専門に入る場合には、後半の短期間でも加速度的に力をつけてレベルをあげられると思います。

生協へのアドバイスを

加藤 最後になりますけれど生協にかかわっているいろいろなアドバイスをいただきたいと思います。

松田 生協は学生のころからずっと利用させていただいております、お昼ごはんとか書籍とかを。こんどは理系食堂を改修するのに多額のご寄付をいただき、ありがとうございます。理系の人間からすると、キャンパスのこっち側に書籍ができたりするのは嬉しいなと思います。

生協の運営についてはこれまでよく勉強してなくて知識がなくていけません、うまく運営されているのではないのでしょうか。今

度大学が法人になってやはり経営のことを考えないといけないのですが、生協さんはそのあたりはこれまでうまくやっていたらいいと思います。生協はある意味ではNPO的なイメージに近い、利益を追求するわけではない活動と理解しています。そういう意味です。すでに大学の活動の一部になっていると思います。大学が法人になって独り立ちし—とはいえないかなか実質的には文部科学省からの独り立ちはできないと思いますけれども—少しづつそういう意識を持つていかなければいけないわけで、その辺でも是非生協さんのサポートといえますか、一緒になって大学の活動そのものを支えていただけると嬉しいですね。

大学にはこの頃いろいろ批判もあります。大学バッシングまではいきませんがマスコミなんかには時々記事がのりますね。それでも大学でしか出来ないような研究とか教育があると思います。大学でしか出来ないような多様で息の長い教育や研究もあります。国家ブ

ロジェクトとして、大きな予算で、ピラミッド型の組織でやる研究も必要ですが、そうではない一人ひとりの教員の自由な発想による研究やそれを通じた教育が多分大学らしい部分だと思います。そういうのが大学の存在意義だと思いますので、大学がなくならないように、生協としてもご理解、ご支援をいただきたいと思っています。

大学は、教育と研究をやりた
い人が集まって、自主的に活
動している組織がいい。その
点で生協と似ている…

法人化のあとは民営化になって、経営とか予算の都合でものごとが決まるような組織にはなつて欲しくないという気がします。教育と研究をやりたい人が集まって、自主的に活動している組織というふうなのがいいなと個人的には思っています。自主的に集まって運営していくという点で、多分イメージとしては生協と言う組織も近いかなと思うんです。出口は

生活ということと、教育研究ということで少し違いかもしれませんが、めざす方向やその考え方は似ているような気がしますので、ぜひ生協さんのほうもそういうことをご理解いただき、これからも大学の活動にご支援ご協力をいただきたいと思っています。

今井 私ども生協は「食」の問題をみんなで考えなければならぬと思つていきます。地域の生協さんがよく言われる、日本の農業をどうするか、食糧自給率を上げよう、これも非常に重要なファクターです。一方で私ども大学生協は学生さんたちにある程度安く食事を提供しなければいけない。そうするとお肉は基本的に国内産は使えない。基本的に南半球産を使う。米はまだ日本産を使つておりますが、チキンとか豚肉とかほうれん草も日本の物が使えない、高くて。

日本の「農」、「食」をどうするか。「食育」という言葉があります。学生さんたちと考えていききたいと思つていきます。

松田 それはおっしゃるとおりすごく大事な問題ですね。日本の自給率が上がらばいいという問題なのか、もう少し世界のレベルでみんながうまくいくように考えたほ

うがいいのか。難しい問題ですが、その視点はいつもどこかに置いて、われわれでしたら教育研究ですし、生協でしたら生協の活動に出していただくことは確かに大事ですよ。

これは多分社会科学ですね。政治的な問題とか経済の問題とか。

農学の中にはもともとそういう人文社会系の分野もありますが、私は専門ではないので、さきほどの話ではありませんが、学生の頃にサボっていたので、勉強不足です。

そうですね、そんなに輸入品が多いですか。

今井 そうですね。お米はまだこだわってはいらるんです、国産にでもいゆる軽い食物は。

松田 輸送してお金がかからない物ということですね。

今井 はい。

松田 軽くなくても牛乳なんかでは乳牛の飼料がほとんど輸入ですから実質輸入と一緒になっちゃいますね。

今井 そうですね。

松田 でも学生さんにとつたら安くしておいしくて栄養があつて安全なものだったならそのほうがいいですね。

皆川 中国や東南アジアなどから相当入ってきていると思います。が、それらの国に安全のための検査技術を提供していかないとけないと思えますね。うちでよく食べている枝豆にしてもほとんど中国産です。安全なものを輸入することは大事だと思うんですけれど。

松田 検査の問題も大事ですね。検査技術はかなり進歩していますが、全部が全部検査できるわけ

はないので、まさにモラルとか倫理的な問題ですね。職業倫理とか技術倫理も含めて倫理的な教育が重要です。

皆川 日本の食肉関係業者の考え方は異常でした。輸入牛を和牛と偽って。多くの会社がそれで補助金を受け取っていた。だけど輸入をストップしたら日本は成り立っていかないし、海外のほうも困るでしょう。やはりそれで生活を立てていますから。だからうまくい具合に食糧生産をしていかないとと思えます。

松田 やはり地球規模で、せめてアジアという規模で考えないと。日本も確かに食糧を輸入していますが、一方では自動車なんかをほとんど輸出していますから。いろいろな要素を総合的に考えないと国際関係をうまくやっていけないでしょうね。

今井・加藤・皆川・箕浦 ありがとうございます。

* * * * *

(インタビューは6月1日、聞き手は名大生協、今井専務理事、加藤理事、室長、皆川常任理事(全学技術センター)、写真は箕浦常務理事(全学技術センター)。文章および見出しの責任は『かけはし』編集委員会にあります。)



地球規模で日本の「農」「食」を考えないと。 職業倫理、技術倫理の教育も重要です。

車に乗ると

どうして人はああ闘争本能丸出しの凶暴になるのだろうか。今日もこんな光景を見て考えた。

区役所に行った。帰りがけ、駐車場の入り口のところで、いい年をした紳士が、今そこに入ろうとしている車に向かって何か言っている。ご自身は乗ってきた車で帰ろうとしているのだろう、奥さんらしい人が車を出そうとしている。入ってこようとする車に一寸待てと言っていたのだ。ところが、奥さんの運転する車がなかなか出ない。若い二人連れの車は強引に入ろうとする。くだんの紳士、「待てと言っただろう」と大変な剣幕。それに対して、車の中からも訳が分からぬわめき声。こんな争いに巻き込まれてもつまらないので結末までは見届けなかった。

そのお年寄りももう少し丁寧に、「一寸待ってくださいませんか」とでも言えば、あんな怒鳴り合

いには成らなかつたと思うし、売り言葉に買い言葉の若い運転手もわめくこともなかつただろうと思う。お互い、随分精神的な負担は大きかつたに違いない。そのあと、随分お互いが腹を立ててムカムカしていただろうと思うと気の毒なことだ。待つのだって、時間にすれば僅かなことである。それを待てないことはないのだから。

そう思いつつその場を後にしたが、振り返ってみれば、自分も車に乗っていると、他の車や、歩行者や自転車などに対していらつくことがあつた。要領の悪い車に邪魔されると無性に腹立たしくなつたこともあつた。「あつた」と過去形で言つたが、現在、極力車には乗らぬ事にし、二、三キロ以内の所は徒歩、雨でない限り、荷物のない限りは名古屋市内は殆ど自転車移動する。たまに車の時も邪魔にならない

ように走る。歩いたり、自転車に乗っていて車に対して抱く恐怖心を人に与えては成らないと思う。そうは思つても、車同士の関係は難しい。車を運転するときほど平常心が要求されることはないと思うのだが、得てして、車に乗るとそれが忘れられるのはどうしてなのだろうか。

そういう、いらつきによる事故だとか、諍いが無いようにあ

りたいものだけれども、どうしたらいいのだろうか。

ただ、私は、自分を基準にして言っているもので、他の人はそんなことはないのかも知れない。そうであれば誠に結構である。私は車に乗るとダメだから、出来るだけ乗らないことにすることで、それを予防しようと思う。

(T)

エスカレーター

久しぶりに電車に乗った。地下鉄名古屋駅でのこと、電光掲示板に「エスカレーターに乗つたら、歩いたり、走つたりしないで、手すりにちゃんとつかまってください」といった意味のお願いが表示されていた。始め、エスカレーターに乗つたら、歩いて止まっている人がいるから、歩く人は右側を歩き、止まっている人は左側に立つてくださいとも言うのかと思つて

みていたら、そうではなかつた。大阪や東京の人が見たらびっくりするのではないだろうか。

エスカレーターに限らず、動く歩道というものが、このごろ多くなつたが、並んで立つて、後ろから来る人の妨害をしているような場面に出くわすことが多い。歩道でも並んでぶらぶら歩く。自分達はそれでもいいのかも知れないけれども、広いところならかまわないが、すれ違い

もできないようなところでそう
されると、まことにイライラす
る。百貨店のエスカレーターで
も二人並んでどんと構え、前に
誰もいないのに動こうともせず、
後ろに気配りもしないような人
が実に多い。歩きたくなければ
歩かなくていいから、一列で左
なら左によってほしいものだ。
一列は歩く者のためにあけてお
いてほしい。

そう思うのだけれども、今日
のこの電光表示はどうだ。エス

カレーターの上で歩いてはいけ
ないと言うのだ。何か考えがあ
るのだろうか、歩く人とちゃん
としている人を分けてくれた方
がありがたいし、そういう趨勢
になっているのではないだろう
か。

もう一つ、直接関係ないが、
星ヶ丘駅の階段に「うしろに注
意」「ひったくり」と張り紙して
ある。すいているときは問題な
いが、込んでいるときなどこれ
は危険ではないか。(T)

へたくそ

ある人の叙勲のお祝いに出席
して思った。何人のお偉方が叙
勲された方に対してお祝いを述
べる。それを聞いていて思った
感想である。それかといつて、自
分が祝辞を述べる立場に立たさ
れたら、巧く言えるかというた
そういう自信があるわけではな
い。それなのに、その日の

何人かのお祝いの言葉が

ちつともお祝いにもなっていな
いし、列席者に感銘を与えもし
なかつたように思った。

何れも話の前後に叙勲おめで
とうとは仰有る。しかし、その後
のお話の自身はおよそその叙勲
とは繋がらない。その方の過去
の事績を紹介されるのも時宜を
得たことだと思われる。だから、
それぞれの方々が過去の結びつ

きについてお話しなさるのもそ
の限りにおいて場所柄にも似
合っている。それなのに、総じて
その日の祝辞を通じて私が抱い
た感じが「へたくそ」というもの
だった。

振り返ってみてなぜそんな感
じを持ったか考えてみた。それ
は、どうも思い出話の内容に
あつたようだ。その思い出話が
全然お祝いに繋がっておらず、
ほとんどがそれを通じて自分の
ことを自慢しているようなこと
が多かつたように思うし、そう
いう、筋すらもなく、ただだからだ
らと自慢話を脈絡もなくつづけ
るようなものもあつた。

話は変わるが、東京オリ
ピックの開会式の時のこと、当
時の昭和天皇が「第：回（何回
だったか忘れたが）オリ
ンピ
アードの開会を宣言する」と
いった簡単な文だったが、それ
をメモを見ながら宣言された。
そのくらい覚えていても良さそ
うなのにと、当時ものを知らな
い私はそう思った。後でそのこ
とを言ったら、それは違う、やは
り間違いなきを期するには書い

た物を見ながら言うのが正しい
のだと。そういわれて、はあ、そ
んなものかとその時は思った。

その後、いろいろな場で挨拶
をしたり、何かの言葉を述べた
りしなければならぬ場に当面
することが多くなつた。その時、
その言葉が成るほどと納得され
た。何も無しで話をしようと思
えば出来ないわけではないが、
そうすると、思っていたことで、
肝心なことを忘れてしまつたり、
脱線したり、やはり良くないの
である。勿論、書いたとおりに話
すことは難しい。ほとんど不可
能だろうが、心がけとしては、話
す内容は、きちんと書き留めて
おくことが肝要だと思ふ。先
のお祝いの言葉は皆さんそらでお
話だった。

又、話が飛ぶが、そらで覚え
ているお経でも本来は経本を見
て読誦するのが正しいと言われ
たことがある。これも、このこと
に通じることだと思ふ。大抵の
お経は、耳から覚えたもので、経
本を見ると、あつ、これはこうい
う事なのかと、何十年も経つて
からの発見もある。(T)

微小重力の世界

名古屋大学情報科学研究科 広木詔三

今年の名大祭は雨にたたられずに無事終了した。私は、月曜の一日目に授業があるので、日曜日にその準備をしなければならぬときがある。六月五日も

先生とテントの下でビール片手に歓談したこともあった。当時は時間がゆっくり流れていたように思う。

授業の準備のために出てきた。地下鉄の環状線が開通して、名古屋大学への交通が便利になり、地下鉄の名古屋大学駅の改札口を出て、地上に出ると、名大祭に参加する若い人で混んでいた。

話は変わるが、つい先日、つまり六月二十一日、文系総合館七階のカンファレンスホールで開催された、高等教育研究センター主催の招聘セミナーに出席した。スタンフォード大学のデービッド・フェッターマン教授による「大学教育改善のためのエンパワメント評価」というタイトルであった。私は、自分の行っている全学教育に少々自身が持てないので、この講演を聴けば、何か参考になることが得られるかも知れないと考えたのであった。講演の内容は、私の期待したような個々の授業改善のスキルに関してではなく、お互いに目標をもって自分たちでお互いに評価をすることが、参加者の意識を変えて自信に繋がる

中央図書館の両側には、グリーンベルト沿いテントを張った出店が並んで賑わっている。私は、その喧噪を避け、ひっそりとした法学部や経済学部の建物の南側を回って情報科学研究科棟に向かった。二十年以上も前には、名大祭企画の講演を聞いたり、授業を担当して顔を知られた学生に誘われて生ビールを飲んだりしたことを思い出した。夏目漱石や野上弥生子等の近代文学を専門とする助川徳星

ということだったと思う。平均点の低かった高校や、これまで近代的技術を利用してこなかったインディオのある地域の人々、もちろん大学の授業改善等々の様々な応用例を示しながら、そのポイントが紹介された。まず、目標をもつこと、インタビュ어나レポートを通して、問題点や課題の重要性に対して、各人の評価をごく簡単な数値で示し、改善に繋げるというのである。フェッターマン教授の話し振りは、かなり早口で、一通り理解したと思っても、話が終わると何がポイントか把握出来ないことに気づいた。その原因の一つには、現在、中央大学総合政策学部で講師をしている和栗百恵さんが、一区切りずつ通訳をするためであるようだ。浅黒く小柄な若い彼女の通訳に注意を向けると英語の理解が妨げられてしまふ。彼女の通訳がなかった方が、フェッターマン教授の生の話をおそらくもっと理解出来たに違いない。彼女の通訳は、原稿なしで教授の早口の話を通訳す

るため、ところどころキーワードが訳されていなかったりするのがあるが、彼女の通訳を聞けば教授のパワーポイントの表示ともにとってもよく理解出来るのであった。おそらく、私が教授の話を生で十分に理解しなかったのは、自分の専門の生態学の分野とかけ離れていたこともあるだろう。生物学の分野だったら、これまで英語の講演は理解できたのであるから。

私は、ここ二十年ほど、ラジオ英会話を聴きつづけている。比較的最近、ようやく自然に英語が聞き取れるようになった。ただ、話す方は、相変わらずものにならない。それはそのはず、実際に話す機会がないので、話す方の脳は発達しないようなのである。講演が終了して、三人ほど英語で質問が出たが、私は質問が出来なかつた。講演の途中で、プロセス・ユースというちよつと難しい概念が出てきたので、その意味を確認する質問を日本語でしたのだが、フェッターマン氏は、機会あることに、私の方に

向かって、このプロセス・ユース
に関連した解説をしてくれたの
である。それなのに、最後に英語
で感謝と意見を述べずじまい
だったのが悔やまれた。意外と
時間が超過して、翌日の大学院
の講義の準備のためにそそくさ
と、その場を離れたのであった。

このように相変わらず話す方
はまったくだめであるが、生物
学の専門書はもう日本語のよう
に読める。このことは英語で論
文を書く研究者なら当たり前の
ことかも知れないが、私のよう
に読むことと話すことがこれほ
ど乖離している例は少ないので
はないかと思う。もう六十を超
し、せつかく話せるようになって
たときには死が待っているとい
うのも皮肉な話である。

最近、とても面白い本を手
入れた。“Gaining Ground”と
いうタイトルの本で、私たちの
祖先が魚類から分かれて、いか
に陸上の四つ足動物になったか
という内容のものである。著者
は英国の女性で、ジェニファー・
クラックという人で、彼女の本

では、これまでのように鳥類を
は虫類から独立させておらず、
は虫類の一員として扱っている。
彼女は、最新の分岐分類学の原
理を取り入れており、面白いこ
とに、我々ほ乳類は、通常の魚類
とは別系統であるが、肺魚や
シーラカンスの仲間だそうであ
る。驚くべきことには、今は絶滅
してしまったグループには足の

指が六本や七本以上のものが数
多く化石として発見されている
そうである。もちろん、これらの
指の数の多い四つ足動物は、現
在の陸上の四つ足動物とは系統
を異にしており、私たちの祖先
はたまたま五本の指をもってい
て、現世の両生類やは虫類や、さ
らには私たちを含むほ乳類はた
またまそれを受け継いでいるに
過ぎない。中生代の終わりに巨
大隕石の衝突で多くの四つ足動
物が絶滅したが、私たちは、その
地球上の危機を乗り越えてきた
祖先の子孫なのである。

私には九ヶ月に入ったばかり
の孫娘が居るが、遅まきながら、
ようやく這い這いしはじめたと

ころである。私はクラック女史
の影響を強く受けたので、娘に
は悪いが、私は自分の孫をデボ
ン紀に陸上に進出した四つ足動
物の祖先と重ねて見てしまうの
である。

話はさらに変わるが、六月二
十三日に、中部大学の小林礼人
氏による「微小重力を利用した
基礎物理現象の研究」という話
を聴いた。これは我が情報科学
研究科の多自由度システム論講
座がセミナーとして小林氏を招
聘したものである。

現在建設中の国際宇宙ステー
ションは、地上四百キロメートル
のところを飛ぶので、比較的
地球に近く、無重力ではなく、き
わめて微小な重力が働くという。
このような微小な重力場のもと
では、気体と液体の臨界点付近
では、粒子の挙動が重力の影響
をかえって大きく受けて、粒子
が興味深い現象を示すという。
地上で、重力の影響をごくわず
かに受ける装置を造って、その
中の流体に熱を加えると、20
0マイクロ秒というきわめて短

かい時間の現象であるが、熱を
受けた流体は対流を起こさずに、
熱だけが波として音速で伝わる
のだという。

物理学に関する話は本当に久
しぶりに聴いた。スター・ウォー
ズを連想させる宇宙ステーション
の話や、微小な物理の世界に
しばし耽った。情報科学研究科
棟の八階で、とても優雅で贅沢
な時間を過ごした。

上記のセミナーでは、物理学
をととても身近に感じたのだが、
私は大学の学生時代にどうして
も物理学の単位が取れなかった
経験がある。このように物理は
苦手でも、大学を受験したとき
は、物理と化学を選んで、生物を
避けた経験がある。高校では唯
一生物で赤点を取ったことがあ
るのである。

過去の思い出にワープしてし
まった。重力の話に戻そう。かつ
てモンゴリナラの根が曲がって
伸びる発見について書いた。
これは重力に関係があるのだ。

ニュースに二喝!!

1分30秒が5350年

4月25日のJR西日本の福知山線での脱線事故（脱線しただけではないのでどういえないのか、脱線転覆でもないし、脱線激突事件とも言えはいいのか）は聞いたとき、俄に信じられなかった。昭和30年代には大きな人身事故、何百人と犠牲者が出るがあった。そのたびに、国鉄総裁の首がすげ替えられたことを覚えている。こんな事故はもうない、少なくとも日本では起こらないと思っていた。それが、死者107人、負傷者が500人以上と言う。電車で激突されたマンションでは死者は幸い出なかったけれども、もうそこには住めないし、住めても住みたくないだろう。連日このニュースばかり。

事故当日に、その電車に社員

が乗っていて、無事だったのだろう、救助も手伝わず出社したというので問題になっていくし、その日や明るる日に、ゴルフ大会だのボウリング大会だの、懇親会だのあつて、それがこともなく行われたというので、マスコミに袋たたきにされておき、JR西日本の会社の体質だと騒がれ、お偉方が何度も何度も記者会見で平身低頭している姿は哀れでさえある。

原因は色々取りざたされているが、結局はカーブでのスピード出し過ぎ。そして、それは、その電車がオーバークラッシュしたりして、遅れが出ていたのを回復しようとしたためであるというところがはつきりしてきている。しかし、その遅れは、この前のダイヤ改正以後恒常的だったとい

う。土台、そのダイヤに無理があるのに、それを運転手に責任を負わせていたということだ。しかも、JR西日本は運転手のオーバークラッシュその他の運転上のミスに対して厳しく、運転手達はそれを畏れて常時スピードオーバークラッシュしていたという。その結果が、この大事故。

亡くなった人達は通勤通学の時間であつたので、若い人が多い。若くても、若くなくても、命の尊さに代わりはない。本当に、悔しかっただろう。冥福を祈るばかりだ。長時間閉じこめられて、圧迫死した人達の恐怖感はいかばかりだったろうか。この運転手も、体の下の部分を圧迫されて死んでいたと言うから、随分長く息はあつたのだろう。

どんなにか悔やんで死んでいったかと思うと、だれも乗客のことだけいって運転手のことを言わないので、私は、運転手の冥福も祈りたい。子供の時から運転手になりたいと言っていたそうだから、生きていれればきつとい運転手になったのだと思う。

それにしても、亡くなった107人は平均してあと50年は寿命があるだろう、そうすれば、1分30秒の遅れを取り戻そうとして、5350年もの寿命を引き替えてしてしまったのだ。早ければいいというものでもない。安全でなければ何もならない。交通機関に関わる人達は誰も彼もこのことを銘記して欲しい。

(田 2005・5・8記)

知らないと知らないと

知らぬが仏ということがあつた。知らずにおれば何でもないことなのに、気が付いたばかりに要らぬ心配などをしなければ

ならないこと、こんなこともよくあることだ。しかし、知らないということは大変なことだといふことを今度のスマトラ沖地震

に伴う大津波で痛感した。日を追って被害の実態が知れ、被害のものがすごさに息を呑む。

地震を感じたところでは、知識さえ有れば、津波を警戒しただろうが、地震から遠く離れたスリランカやインドでは思わぬ津波の来襲に大変な被害を被った。津波の警報の必要がこれを機に叫ばれるようになったのは当然だ。

今まで津波がなかったのかと言えば、実はそうではないらしい。特に、スマトラ沖では割合よく地震が発生している。対策が遅れたのである。警報が出せなかったにしても、せめて津波の恐ろしさを教えておくだけでも被害は少なくできたかも知れない。今更何を言っても仕方ないが、この教訓を忘れないようにしたいものだ。

知らないと言えば、第二次世界大戦中、日本国民は随分いろいろな情報から隔絶されていた。多くの国民が世界の情勢に無知であった。世界の情勢を知っている人達を政府はなんだかんだと言つて口封じをした。人々は

鬼畜米英などと本気に思つていたらしい。戦争に負けたら、米英人のために食べられてしまうかも知れないなどと本気に思つていたという。

知らないということの一つの見本だが、今の北朝鮮の情態もどうも似たようなものらしい。先日の拉致被害者に対する北朝鮮の調査報告が、調べてみると全く信憑性のないことを日本政府は公表し、北朝鮮にも抗議し

占い師の妄言

今年になって、其処此処で尋ねられる。「和尚さん、仏壇に亡くなったお父さんやお母さんや子供の写真を飾つては行けないそうだけれど、どうして？」とか、「何で、写真を飾るとばちがあたるの？」などと。

あまり私はテレビは見ないけれども、たまたま、見るともななく見ていたところ、この頃はやりの占い師という女性がとくと

た。それに対して、北朝鮮当局は逆に日本政府のでっち上げだという。それを発表する北朝鮮のテレビのアナウンサーの自信に満ちた態度、全く自国政府の言うことを心底信じている様子だ。戦前戦中の日本のようだ。真実を知らないということの恐ろしさ。真実を知ること、それをきちんと教育することの大切さを痛感した。

(田 2005・1・17記)

くと仏壇に亡き人の写真を飾ることの良くないことを言っていた。曰く、お参りしていたときに、それが落ちてきて怪我をしたとか。なんと不安定な飾り方をしたのか。飾るならきちんと飾らなければ行けない。額を上げるにしても紐が切れないようにしておかなければ行けない。そんなことは、何だつて同じ事だ。亡き人の写真に限らな

い。

人心を惑わす様なことを公器であるテレビを使って言いふらして貰つては困る。何の根拠もない。私が聞いていたときには言わなかったが、亡き人が浮かばれないとも言つていたそう。一体それはどういう事か。何の根拠もないことだ。写真は亡き人を思い出させるまことにいいよすがである。そのことが、いけないと言ふのだろうか。人情の機微を無視した言である。

お釈迦様が亡くなる直前に説かれたという「仏遺教経」の中に「吉凶を占相し、星宿を仰観し、…するは、皆応ぜざる所なり」と比丘のすべきでないこととして挙げている。その害を思つてのことであろう。占い師の仕事として迷つた人を導くことは世のためになることであろうが、世の中の人々を不安に陥れるようなことはすべきでなからう。

一方、テレビの視聴者も、いろいろな事柄を見て聞いて自らの判断力を養つて欲しいものである。(田 2005・6・5記)

5月21日「名古屋大学平和憲章のつどい」報告

憲法をいかに殺すも市民次第

5月21日、13時から名古屋大学平和憲章委員会による「名古屋大学平和憲章のつどい」がIB電子情報館大講義室にて開催され、若い学生を中心に260名が参加しました。平和憲章委員会を構成する各団体の多大な協力により、近年の取り組みとしては画期的な集会となりました。

第一部では、本秀紀・名古屋大学法学研究科教授の講演「いまなぜ憲法・教育基本法を変えろのか」が行われました。憲法は、アジア太平洋戦争という侵略戦争についての深い反省から出発し、非軍事平和主義（前文と9条）と個人の尊重（13条）を基調としており、誰もが平和で人間らしく自分らしく生きる権利を保障していることが述べられました。そもそも憲法とは国家権力者の強権を国民の側から規制するものであり、それが日本国憲法の本来の性格であることが強調

され、改憲論者が主張する国民の義務・責務の強調は憲法の性格を転換させるものであると結論づけた。「憲法は国家をしぼる規範なり」という解釈はとても新鮮で、憲法の本当の意味を知り得たと思いました。

現実と憲法とのギャップを見て、憲法を変えようと言う発想ではなく、最初から現実そのものを変えることを目的として憲法を見たときに、改めてその価値に気付かされます。「憲法をいかに殺すも市民次第」ということを、私たちは肝に銘じていきたいと思いました。

さらに、講演は、最近の改憲論の特徴について簡潔にまとめられました。改憲論者がなんとしても変えたいのが9条2項です。自衛組織の承認と（軍事行動を含む）「国際協力」条項を書き込みたいと考えているようですが、これでは日本が「戦争のできる国」になってしまいます。こればかり

は何としても阻止しなければなりません。また、今回一気に改憲とならなくても、改正条項（96条）の規制緩和を狙い、いつでも改憲できる仕組みを作り出そうとしていることに、注意を払うべきであると感じました。

第二部では、義家弘介さんの講演「ヤンキー新なる挑戦！」が行われました。

義家さんは、これまでのさまざまな経験に基づいて、教育について熱く語ってくれました。

最初に、義家さんは、生い立ちから話し始めました。中学・高校時代は喧嘩三昧の毎日であったこと。親から見放されて、北星学園余市高校へ編入されたこと。この高校は全寮制であったが、しばしば東京まで抜け出したこと。しかしそれでも自分を探し回ってくる先生がいたこと。そしてその先生の姿を見て自分も教師になりたいと思ったそうです。荒れていた自分だからこそ荒れた生徒達の心がわかるし、本当の力になれると考え、一念発起して勉強に打ち込み、ついには母校の教師となった過程は、人間が明確な目標を持ったときに発揮される力がどんなものかを教えてくれました。

今年4月より、教師を辞して横浜市教育委員となった過程も丁寧に説明されました。彼は教育現場を立ち去ったわけではなく、教育委員として新たに大きな現場で、新しい仕事に挑戦しているとのこと。

教育委員は閑職で、時々開催される委員会に出席し、時には学校の視察に赴き先生らの意見を聞く程度だというのが、義家さんは毎日どこかの学校を視察し、生徒と一緒に給食を食べ、放課時間は生徒達と力一杯遊び、そして現場の教師達と夜遅くまで問題点を探り合うのだそうです。

一体、彼のこのエネルギーはどこから湧いてくるのだろうかと思うほど、精力的に、熱く学校現場や家族を語る姿に、若い聴衆は強い共感と憧れを抱いたことでしょう。そして、生きる事の意味が希薄になってきた人にとつては人生の応援歌となつて、新しい力を与えたのではないかと思います。

実行委員会の難しい注文に代えて頂いた本先生、そして私たちにエネルギーをくれた義家さんに、あらためてお礼申し上げます。（文責・河合利秀）

第46回名大祭有志企画「ミニ平和資料館」

ユニセフとフェアトレードを紹介 中国の歴史教科書を展示

第46回名大祭の有志企画「ミニ平和資料館」は、今回も生協学生UNICEF班と共同で企画・実施、昨年を上回る参観者(300名超)を得て、無事終了しました。参観者の中には、昨年も訪れていた市民の方も何名かいました。企画を実施する上で、市民の皆さんがリピーターになっていたのは大きな励みになります。

企画内容は、大きく分けて、UNICEF関連、フェアトレード関連、平和憲章委員会関連の3テーマの展示と物品販売、そしてCafeの組み合わせでした。

今回の企画は、準備段階から最後の後かたづけまで、UNICEF班の若い力を中心に進めてもらいました。手書きのタテカンや展示のポスターなども含め、よくできていたと思います。

テーマーUNICEFの紹介、ユニセフ商品の販売、UNICEF募金、

UNICEF商品の売り上げ

・・・4610円

テーマ2ーフェアトレード商品の展示販売と試飲試食をかねたカフェ

フェアトレード商品

・・・37390円

カフェ関連売り上げ

・・・4660円

(内、クッキー3265円)

テーマ3ー平和憲章委員会の展示「悲惨な戦争」

15年戦争(日中戦争、太平洋戦争)の被害の実相と被害国の歴史教科書

アウシュビッツの記録

原爆被害を伝える写真と絵

(パネル)

「悲惨な戦争」(Power Pointで構成)と「Web版戦争の作り方」をプロジェクトで表示

今回の特徴は、中国の歴史教科書を留学生委員会の協力を得て、中国の歴史教科書を展示、資料に「南京大屠殺事件」と関東軍



(日本軍)による中国支配政策の記述部分を日本語訳し掲載したことです。

この取り組みは、全国の留学生に「歴史教科書」を送ってもらう運動として広げ、次回につなげることになりました。

今後の課題としては、フェアトレードや教科書問題を取り扱う企画の関連で、留学生委員会の協力を得ることが必要です。

同時に、Webによる世界の平和運動の実況を中継する企画も、平和運動との連携企画として追求する必要があります。

地下鉄開通で軽かったのか
★「フィールドノート」毎回来しみに拝読しています。今年は花粉の飛散が多いと聞いていた割には、軽症で済んでしまいました。地下鉄開通で、外を歩く時間が減ったせいでしょうか？

【赤松保雄】

自然豊かな名古屋大学
★桜の記事がありました。名大の桜はともきれいだと思えます。豊講前の芝生もすっきりきれいになり、子供たちや犬が遊んでいるのを見ると、名古屋大学に来てよかったなあと思います。
【しげによん】

インタビューは？
★今回は先生へのインタビューがないのが残念でした。また、相変わらず過激な投稿があり楽しませてもらった。なぜ、中国・韓国の人たちはいつまでもギャーギャー騒ぐのでしょうか？東南

アジア諸国の人たちはそれほどでもないのに。
【チロ】

日本の戦後処理は不十分

★「中国・韓国における反日デモと暴動を考える」には考えさせられました。日本は、中国、韓国、北朝鮮や、日本国内の戦争被害者だけに謝罪や補償を行うだけでは戦後処理は十分ではないでしょう。反日デモや暴動が起きていないといつても、太平洋戦争の戦場となった東南アジア諸国の人々や、さらに民間人と軍人を差別してはいけませんので、当時敵国であったアメリカ、イギリス、オランダ、ソ連現口シオなどの国々の戦死した兵隊の遺族に対しても謝罪や賠償をはじめ、いろいろ行うべきでしょうね。
【だるまおとし】

留学生を見ると嘘のよう

★中国・韓国における反日デモと暴動を考える、には共感させられました。名大の留学生の方を見るとこんなことが嘘のようなんですけどね・・・
【ZZT】

暴力行為はやめるべき

★反日デモについて。過去の歴

史よりも、まず暴力行為はやめるべき（非常識だと思う）。海外でも批判された中国、当然反省すべき。とにかくオリンピックの北京開催はやめてほしい。今回のデモは若者中心、その若者が多く集うオリンピック。危険度が高すぎる。日本語を話さないように気をつけながら、平和の祭典「オリンピックツアア」なんて・・・矛盾だらけじゃない??
【俺、kazun】

湾曲な表現が好き

★国家「君が代」の怪を読んで、さざれいしのいわをとかなりて・・・の部分、私には非常に入って気安かったのですが、巖が、砕けて細石になるのは、数年、数十年の単位で想像できて、さらには瞬間的に砕け散る様子が頭に描けます。ここまでは同じですね。逆に、細石が雨水と伴に流され、河を転がり砂礫となつて、それが次々に積層していき、圧力で押し固められ、地球の一部と化し、ある日の地殻変動で隆起して、その中のある部分で切り出されて、断崖に忽然と現れる。こんな想像をしてい

たのですが・・・日本と言う国は、いつ頃から日本だったのでしようね。でも、この悠久の時、エントロピーに逆らうかのよう（実際太陽の放射エネルギーや、地核のエネルギーを使用している）、部分的にはエントロピーは減少しているのかな）時の、湾曲な表現が好きです。
【アーキア】

細石って・・・堆積岩

★細石って、普通に岩石になつて、そこかしこに転がってますよ。いわゆる堆積岩（中でも砂岩とか礫岩とか）つてやつ。
【ナンバー6】

おしゃれな名大ブランドを

★感想のところにあつたようにおしゃれな名大ブランドというのがあればいいと思います。ただ名大と書いてあるだけではダメだし、だれも買いません。オシャレなものになれば私も買います。
【まるまる】

クイズ簡単すぎ

★今回のテストは簡単すぎです。

【may】

意見と通信

インタビューはなくなった？

★以前連載していましたが研究科長のインタビューはなくなつたのでしょうか？ 楽しみにしていたので、ぜひ継続をお願いします。
【may】

▼毎号とは行きませんが継続して取り組んでいきますのでご期待ください。
【かけはし編集部】

でっかい看板目立ってます

★北部食堂にでっかく書籍15%OFF、パソコン&家電品フェアって告知されていて、とてもよく目立っています。今までより宣伝方法としてとてもいいと思います。これからも既存の方法にとらわれないやり方でがんばって下さい。
【まるまる】

色々なコーナーを作って

★もっと、色々なコーナー（趣味など）を作って欲しい。
【アーキア】

想定範囲内なる名言

★株式市場に旋風を巻き起こした「ライブドアvsフジ」問題によって、経済の勉強ができました。ポイズンピル、ホワイトナイトなどと共に「想定範囲内」なる名言を残したことは功績といえるかも。一方、JR事故から表面化して、巨大企業の古い体質と膿は日本社会の裏側を覗く鏡となつたようだ。
【赤松保雄】

平和とヤンキー先生の関係は

★ヤンキー先生と平和憲章にどういう関連があるのか分かりません。
【だるまおとし】

クイズの難易度を上げて

★クイズの難易度を上げてください。ちよつと簡単すぎで手応えがありません。
【チロ】

ロジック簡単すぎ

★今月のロジックは簡単すぎますよ！もう少し難しいものを出題して頂くと嬉しいですよ。
【ZZT】

難しくすると応募が減って意見交流

▼難しくすると応募が減って意見交流ができなくなるのですが・・・今号はちよつと難しくしてみました。
【かけはし編集部】

教職員委員会活動日誌 (2005年5・6月)

月	日	事 項	場 所
5月	6日(金)	平和憲章委員会	名大職組書記局
	9日(月)	5月度常任理事会	ゆ〜どん
	14日(土)	全国理事会	東京・杉並
	16日(月)	5月度理事会	フレンドリィ南部
	20日(金)	平和憲章委員会	名大職組書記局
	21日(土)	名古屋大学平和憲章のつどい	IB電子情報館大講義室
	23日(月)	理学部利用者懇談会	理学部大会議室
		通常総代会点検会議	南部食堂ホール
	26日(木)	通常総代会リハーサル	南部食堂ホール
	27日(金)	第77回通常総代会	南部食堂ホール
6月	1日(水)	生命農学研究科長インタビュー	生命農学研究科長室
	4・5日	名大祭「ミニ平和資料館」	全学教育棟32番教室
	6日(月)	6月度常任理事会	ゆ〜どん
	11日(土)	東海地域センター新学期活動交流会	愛知大学車道校舎
	13日(月)	6月度第1回教職員委員会	IBカフェ
	14日(火)	映画「スウィングガールズ」上映会	ゆ〜どん
	15日(水)	大学(副総長)との懇談会	グリーンサロン東山
	16日(木)	平和憲章委員会	名大職組書記局
		ピアガーデン	ゆ〜どん
	20日(月)	6月度理事会	フレンドリィ南部
21日(火)	役員報酬検討委員会	ゆ〜どん	
25日(土)	地域センター理事会	東海会館	
27日(月)	6月度第2回教職員委員会	IBカフェ	

北部生協まつり

教職員委員会企画報告

映画上映会

「スウィングガールズ」 に16名参加

6月14日、北部厚生会館2階ゆきどんにて映画「スウィングガールズ」を上映。「ウォーター



ビアガーデンで談笑する参加者

ボーイズ」の矢口史靖監督色を感じる青春ドラマって感じで、観ている者も一緒にスウィング

してしまう、そんな作品でした。ラストの演奏「A列車で行こう」「ムーンライトセレナーデ」「シ

ビアガーデン

6月16日(木)午後5時30分開店のビアガーデンをゆきどんで開催。参加者は38名と多くの組合員のみなさんに参加いただきました。夏のビアガーデンも定着し、暑い夏を解消する楽しい企画となりました。39140円の売上があり、利益6397円をユニセフにカンパしました。ご利用ありがとうございました。

映画「スウィングガールズ」

参加者の感想

①この企画をなんで知りましたか
ポスター(6)、ピラ(2)

②参加の動機は

映画好き(2)、作品に惹かれて(6)、友人の誘い(1)

③作品について

とても感動しました。音楽の力が大きいですね。(シズ)

ジャズやりたい(山内) 画面もみやすく良かったです。ちよつと空気が寒かった。場所的にもちよつと良い。(亀田研)

おもしろかったです。だんだんジャズに魅せられていく登場人物の気持ちがよくわかりました。面白かったです。想像よ

りも。

おもしろかったです。(2)

ジャズをもっと聴きたくなりました。面白いと思えました。

④次回の希望作品や委員会
に一言

サンダーパンツ
電車男

映画とかよく分からないのでおまかせ(シズ) ありがとうございます(山内) よい企画だったと思います。

アンケートの回答ありがとうございました。これから夏冬二回の映画上映会を開催していきます。皆さん気軽に参加下さい。



名大生協

「かけはし」編集委員会行

.....山.....折.....り.....

○氏 名 _____ 組合員証番号 _____

○所 属 _____ 研究科
学部 _____ 専攻・課
センター _____ 学科・掛 (教職員・院生)

○連絡先 _____ 内線 _____

○誌上匿名希望の方はペンネーム _____

.....山.....折.....り.....

COOP NAGOYA 学内便
〒466-8601 名古屋市千種区千種 4-1-1 名古屋大学
〒466-8601 名古屋市千種区千種 4-1-1 名古屋大学
〒466-8601 名古屋市千種区千種 4-1-1 名古屋大学

_____ アンケートに _____
_____ ご協力願います。 _____

第 260 号

クイズのこたえ _____

☆今月号を讀
んでの感想

☆記事にしてほしいこと。生協への
ご意見やみなさんからの通信をぜひ。

COOPクイズへの応募、アンケートの回答は、<http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/kakehashi/answer.html> から送信できます。また、e-mail:kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp でも受け付けます。必要事項をみれなく記入してください。

理学部利用者懇談会報告

高くても美味しいものを食べたい

を食べたい

- 5月23日昼、理学部会議室において理学部組合員懇談会が開催された。まず初めに参加者の食事時間を利用して週末開催される通常総代会の議案について箕浦常務理事から説明がありました。その後、参加者から理系カフェテリア食堂の共通メニュー導入後の意見が出されました。
- 井コーナーはよい企画だが導線を考えてほしい。
 - 副菜の炒めメニューのパターンが少なすぎる。
 - スープの数を増やすことと円未満のスープを置いてほしい。
 - 名古屋は魚料理が少ないので良く生協を利用するが二百円以上の主菜となるメニューも取り入れてほしい。
 - 入口にメニューはあるが物がどこにあるかが分からない。
 - 外人もよく分かるようにローマ字表記もしてほしい。
 - 使用食材の中身の表示もしてほしい。

○夕食時に昼食べた物と同じ物があり行く気をなくす。

○閉店がもう一時間遅いと良い。

○食堂つばくない。ただご飯を食べるだけつて感じがする。

○他の生協ではマスクをしているが名大では清潔感にかける。

○食器洗いの音がうるさい。

○5時半頃行くと昼の残りではと思える物がある。

▼同じメニューを出すことはあつても昼作ったものを出すことはありません。

○神戸大では前日のご飯を自由に安価で食べられたけど。

▼今使っているお米は冷めると美味しくないのでそういう利用はできません。

○少し高くても美味しいものを食べたい。

○名大祭の人たちが利用されると行く気がしない。

○理系ショップについての意見

○ビデオテープがない。

○アイスがレジから遠く待っている間に溶けてしまう。

○ご意見ありがとうございます。できることから改善いたします。

6月度理事会報告

6月20日18時からフレンド

リイ南部食堂ホールにて6月度理事会が開催された。

【審議決定事項】

①名大生協版読書マラソンの取り組みについて

全国大学生協連合会の読書マラソンコメント大賞に連動して名古屋大学読書マラソンコメント大賞を大学の後援を頂いて開催する。

②理事会開催日程の確認

今年度の開催日を月曜日を中心にして決定する。

【協議審議事項】

①第77通常総代会まとめと今後に向けて

テーマブースで話された内容を運動として広げていくことと総代・生協委員に情報提供して活動を作っていく。

②大学説明会対応について

8月9～11日に行われる大学説明会に昼食の提供、相談コーナー、休憩所、道案内など参加者の不安を取り除く活動を大学と共にやっていきます。

③理系施設充実に関して

理系食堂の改修計画と北部1階の全面改装と併せてそれぞれの役割を検討していきます。

④医学部改装検討に関して

清潔感のある食堂と学章入り記念品のコーナー化をメインに本年9月に実施します。

【報告事項】

①5月決算結果とミニ学習会

5月単月では購買部だけが予算を達成したが書籍と旅行サービス部門で大きく予算も前年利用も割っています。

②各組織委員会の活動報告

学生会委員会

Me~dia7 製作中。牛乳パックの回収。おにぎりの人気投票。

教職員委員会

平和憲章のつどい、名大祭、生協まつりでの取り組み。

③大学との懇談会結果に関して

④新学期活動のまとめに関して

⑤大学の変化に対応して

国立大学へのコンビニの参入、PFI(民間資金)による建物建設などの動きがあるが、名大では理系食堂の改修や災害協定など大学との良い協力関係を保っていききたい。

CO-OP QUIZ

No. 260
2005年7・8月号

縦と横に書かれた数字にしたがって
マスをうめていくと絵（または文字）
が現れます。それは何でしょう。（ヒン
ト＝松田先生の専門は）



			1			4					
		1	1			1	1	1			1
5	1	1				1	3	1		4	1
1	6	1	3	5		1	1	1	4	0	5

		4	1	2	3						
	1	1	2	1	1						
		4	1	1	1						
			1	1	3						
					1						
				1	1						
				1	3	3					
3	1	1	1	1	1						
	1	3	1	1	1						
	1	1	1	1	1						
	2	3	1	1	1						

クイズが解けたらぜひ応募してくだ
さい。クイズの嫌いな方は、ご意見だ
けでも歓迎します。

前回の正解は「77」でした。解
き方がまだわからない方は、解答の
絵の数字と黒マスの関係をよく見て
ください。

あなたもLogicの問題を創作(出題)
してみませんか。問題の投稿も歓迎し
ます。手描きでもOK。採用の方には
図書券を進呈。

前
回
の
問
題

						4	4	2	8	8	0	4	4	2	8	8
			5	5												
			5	5												
		2	2	2	2											
		2	2	2	2											
			2	2												
			2	2												
			2	2												
			2	2												

第259号の当選者

・応募総数 ……11人

・正解者数 ……11人

・当選者 (敬称略)

浅井佳美 (総務企画部)

成田哲生 (工学研究科)

杉浦栄紀 (環境学研究科)

村上和隆 (環境学研究科)

赤塚保雄 (情報連携基盤C)

以上の5人の方に図書券をお送
りします。

応募要項

○締め切りは8月18日

○発表は本誌、10月号

○正解者(但し、①組合員

②当選後ご加入も可、

③意見・感想記入者)の

中から、抽選で5人の

方に図書券をさしあげ

ます。

○生協への意見・要望をど

しどしお寄せ下さい。